

## 議事録

日本学術会議 物理学委員会 IAU 分科会 (第 25 期第 5 回)

日時：2022 年 1 月 21 日 (金) 16:00～16:40

場所：オンライン会議 (新型コロナウイルス感染症対策下のため。

ZOOM ビデオ会議システムを使用。)

出席者：林、渡部、山崎、生田、相川、浅井、今田、奥村、坂井、佐々木、新永、須藤、住、  
田代、田近、千葉、常田、中畑、深川、藤澤、観山、村山、山田

欠席者：梶田、藤井

オブザーバー：山岡 均 (国立天文台)、富田晃彦 (和歌山大学)、清水敏文 (宇宙科学研究所)、山本 智 (日本天文学会)、岡 朋治 (宇電懇委員長)、本原顕太郎 (光赤天連委員長)、  
鶴 剛 (高宇連会長)、田島宏康 (CRC 実行委員長)、富田賢吾 (理論懇運営委員長代理)  
(順不同、敬称略)

(Q) 質問 (A) 回答 (C) コメントをあらわす。

### 0. 前回議事録の確認

前回(第 4 回分科会)議事録【資料・IAU-0】の確認を行った。議事録は、特に異議などはなく、承認された。

### 1. IAU 会員推薦について

【資料・IAU-1】に基づき、IAU 会員への応募者の確認を行った。日本では当分科会において承認した方々を IAU へ新会員として推薦している。IAU には拠出金が支払われていることもあり、きちんとした承認プロセスが必要であり、本分科会がそれを担っている。新会員の承認は毎年行われることになっている。今回は 15 名のレギュラー会員と、2 名のジュニア会員の応募があり、審議の結果、全員を IAU Nomination Committee へ推薦することとした。

(Q 坂井)IAU 会員に何か基準はあるか？これまでに内容や会員推薦に疑義があったことはあるのか？

(A 渡部)博士号を取得後 3 年以上が経っていることが基準。この基準により推薦に至らなかった例はこれまでにある。

(Q 相川)常勤職であるかどうかは、基準に関係ないか？

(A 渡部)経験としては常勤・非常勤を問わない。

## 2. IAU 活動報告

渡部委員長より、【資料・IAU2】に沿って報告があった。

### (1)総会の報告

延期されていた IAU 総会・科学セッションについては、2022 年 8 月 2~11 日にハイブリッドでの開催となることで進んでいる。7 件のシンポジウム、10 件のフォーカスミーティング、4 つのワーキンググループが予定されている。現在、参加登録を受け付けており、積極的な参加を期待する。

### (2)APRIM2023 の状況

2023 年 8 月 7~11 日に、国際天文学連合アジア太平洋地域会議(Asia-Pacific Regional IAU Meeting; APRIM)2023 の福島県郡山市「ビッグパレット福島」での開催に向けて準備が進んでいる。令和 5 年度日本学術会議共同主催国際会議として承認を得るための審査中である。インターネット回線および、レストランなどの環境整備を進めている。郡山市長や福島県知事への表敬訪問も予定されている。

## 3. その他

### (1)日本学術会議後援名義イベントの申請状況

山岡氏より、【資料・IAU3-1】に基づき、前回分科会に引き続いて、日本学術会議への後援申請を行っている旨、報告があった。

### (2)NAEC 活動報告

富田氏より、【資料・IAU3-2】に基づき、NAEC 日本チームの活動報告があった。IAU や OAE に関する各種文書やお知らせの日本語化とそれらの公開について実施状況が説明された。富田氏は、IAU Division C (Education, Outreach and Heritage)の steering committee のメンバーを務めており、その活動報告があった。2022 年 8 月に開催される Division Day の内容検討を行っている。天文教育に関連した国際的なジャーナルがこれまでに不足しているとの議論が長年あったが、この度「Astronomy Education Journal」を創刊した。

(C 渡部) 雑誌については、立ち上げ時はそれなりに盛り上がるが、持続するのが難しい。Division C としてうまく続けて欲しい。

### (3)IYBSSD 報告

渡部委員長より【資料・IAU3-3】に基づいて、持続可能な発展のための国際基礎科学年(IYBSSD)について報告があった。2021 年 12 月 2 日に国連総会で正式に決議され、2022 年 6 月 30 日から 1 年間の活動を行うことに向けて、動き出した。物理学分科会の野尻委員長が中心となって活動されている。11 月 22 日に第 1 回会合が開催され、運営ワーキンググル

ープに渡部委員長、広報ワーキンググループに山岡氏、学術フォーラム企画ワーキンググループに生田副委員長など、本分科会委員・関係者も貢献している。IYBSSD キックオフの学術フォーラムを7月から8月に開催する予定である。天文分野としては、日本天文協議会を11月1日にオンラインで開催し、各団体に連携協力をお願いすることになった。IYBSSDの日本語版ロゴは国立天文台広報グループにより制作・決定された。11月18日の皆既月食+天王星食という天体イベントなどを契機にして盛り上げて行きたい。

日本学術会議における IYBSSD の WEB ページ：

[https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/iybssd\\_s/index.html](https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/iybssd_s/index.html)

(以上)